# 令和５年度 第１回那須地域定住自立圏共生ビジョン懇談会

**開 催 日 時**　令和５(2023)年９月 26 日（火）　午前 10 時から午前 11 時 25 分まで
**開 催 場 所**　那須塩原市役所本庁舎 303 会議室
**出 席 委 員**　８名
**欠 席 委 員**　３名
**那須塩原市**　企画部長
**事　務　局**　那須塩原市企画部企画政策課　４名
**構 成 市 町**　大田原市 政策推進課　１名
那 須 町 企画財政課　２名
那珂川町 企画財政課　１名
**傍　聴　者**　なし

## １　開　　会

## ２　あいさつ（企画部長）

懇談会委員の任期満了に伴い、新しい委員の方をお迎えして最初の会議となる。また、今後令和 7 年度からの 5 年間を計画期間とする第 3 次那須地域定住自立圏共生ビジョンの策定を予定している。定住人口を増やし、持続可能な地域の実現に向け、奇譚のない御意見をいただきたい。

## ３　自己紹介(各委員)

## ４　会長、副会長選出

〇会　長　石井　大一朗　委員
〇副会長　村山　茂　　委員

## 5　報　　告

### ⑴　令和４(2022)年度事業実績について

（事務局より説明）

【質疑等】

副 会 長　：農観商工連携推進事業については実績がなかったということだが、地域ブランドの認定やガストロノミーツーリズムの研究は行っているのでは。

事 務 局　：那須地域的住自立圏という枠組みでの事業は実施できなかった。

委　　員　：外部人材招へい事業について、石井会長も関係があるようなら事業内容を御紹介いただきたい。

会　　長　：令和４年度から始まった事業で、今年度も講師を務めた。参加者が取り組んでいる活動や抱えている課題を共有し、講師陣や参加者とディスカッションすることで課題の解決、明確化につなげようという取組。圏域内から広く参加者が集まってくれており、参加者同士だけではなく、地域の方々とも連携したいという機運が高まっていることを感じている。すぐに成果が出る事業ではないが、県北の人材育成という点で一定の役割を果たせていると考えている。

委　　員　：結婚サポート事業を実施し、結果的に成婚に至った数というのは把握しているのか。

事 務 局　：事務局で成婚数は把握していない。今後担当課と連携し把握するようにしたい。
（その後、那須塩原市民がこの事業をとおして成婚した数を報告　R 元年度 3 名　R2 年度　1 名　R3 年度 11 名　R4 年度 7 名）

## 6　議　　事

### ⑴　第２次那須地域定住自立圏共生ビジョンの改定について

（事務局より説明）

【質疑等】

委　　員　：観光宣伝事業の事業費が昨年度と比べると減額されている。印刷代等の高騰で PR に係る費用などがかさむことが見込まれる中で、減額されているということは、事業として縮小していく方針なのか。

事 務 局　：そのような方針はとっていない。また、事業費を減額するよう働きかけも行っていない。令和５年度に実施する事業内容と令和４年度のそれを比較した際、結果的に減額となったということだと理解している。

委　　員　：中山間地域の公共交通には多くの課題がある。警察等と連携し、高齢者の免許返

納にも取り組んでいただきたいが、それにはその不便さを補うきめ細かい対応が必要である。

事 務 局　：その点は事務局としても把握している課題である。どのようなサービスがこの圏域にふさわしいのか引き続き検討させていただきたい。

委　　員　：2 点について発言させていただく。

まず、有害鳥獣等対策事業についてだが、地元では、シカによる被害はあまりなかったが、近年観測されるようになってきた。これまでもシカが身近にいた地区ではとられていた対策が、そうではない地区ではとられていないため、簡単に被害が出てしまう。こういったことを防ぐため、この圏域で連携して対策に取り組んでもらいたい。

次に、移住・定住サポート事業は、この圏域を東京で PR できる重要な取組だと理解している。移住者が多い市町とそうではない市町の差は、これからも広がっていくと考えている。そうならないためにも、魅力ある県北地域とするため、みなさんとアイデアを出していきたい。

会　　長　：移住の課題については、関係人口をいかに増やすかという研究を大学でも行っている。中山間地域が大好きという若者たちは必ずいるので、そういった層と地域をつなげることができたらいい。それには観光を所管する部署と市民活動をサポートする部署が連携するなど、各種機関の連携が必要。

副 会 長　：コロナ禍を経てアウトドアがブームになっている。中山間地域とアウトドアは相性がいいのでは。鳥獣害対策にもつながる。

委　　員　：観光客は、移住者となる可能性を持つ人と見込むことができると思う。観光客と地域をつなげる接点があると移住に結び付くのでは。

会　　長　：その取組は、やはり観光関係者だけでは実現できない。例えば、修学旅行で地域の高齢者をインタビューするといった取組を行っている自治体もある。そのインタビューをとおして生きる喜びや地域の良さを知ってもらいたいという狙いである。この取組も観光、福祉、教育といった分野が関連する。

委　　員　：一体的に取り組んでいく必要がある。横のつながりが重要である。

会　　長　：観光客と移住を結びつけるような事業は、定住自立圏の枠組みで行うことができると考えている。

7　意見交換

⑴　第3次那須地域定住自立圏共生ビジョンの策定に向けて

（事務局より説明）

【意見交換】

委　　員　：生活雑貨店を営んでおり、観光客も来店する。確かに観光客からこの地域に移住したいという話をされることもあるが、それと同時に住環境（病院等）を不安視する声も聞こえる。観光には家族で訪れる方も多くいるので、移住定住のPRにつなげるというのはいいことだと思う。移住の相談に来る方だけではなく、観光客のような層にもこちらから働きかけられるといい。

会　　長　：確かに観光客が出会う地域の方は、お店の従業員ということが多いかもしれない。そういった方々が移住のPRをできると面白いかもしれない。

委　　員　：移住に興味がある方の話を聞くと、この地域を決め打ちしているわけではなく、いくつか候補地を持っている。

委　　員　：移住することに対して手厚い支援をすることによって移住者へ訴求したい。

会　　長　：その地域で暮らすことに対して前向きになってもらうための訴求は必要だ。西日本で移住者へ工夫して案内をしている自治体がある。それは、相談者の属性（年齢や家族構成等）と同じ属性の職員が案内をするというもの。相談者の目線に寄り添った案内をすることができるようになる。

委　　員　：移住をPRする際は、狙う層を明確にすべき。その際はキャッチフレーズをつくることも効果的である。「世界一〇〇」のようなフレーズは効果があるのでは。また、事業を行う側がやらされているといい事業は行えない。ぜひ前向きに取り組んでほしい。

会　　長　：確かに若い世代はSNSで世界を見ている。「世界一〇〇」というくらいのフレーズは必要かもしれない。

委　　員　：自治会目線で発言させていただくと、自治会への加入率が低下していることが課題である。移住者も自治会に加入しないとなると、地域内でのコミュニケーションがとれなくなっていく。

会　　長　：大事な視点だと思う。移住した若い世代と地域のコミュニティがどのように接点を持つのかというのはこれからのテーマ。例えば「新しい自治会モデル」を実証的に作ってみたりするのは面白い。

委　　員　：公共交通で課題に感じているのはマップ、時刻表のわかりにくさ。この改善にぜひ取り組んでもらいたい。

委　　員　：県北地域は観光が重要。一つのアイデアとして、花を活用してイベントを盛り上

げるのはどうだろうか。花というのは意外に人を多く集められる観光資源である。

副 会 長　：公共交通について、圏域内でも十分なところとそうではないところがある。第3次那須地域定住自立圏共生ビジョンでは公共交通が不便な地域により力を入れていってほしい。

委　　員　：子供や若者に対する取組が見当たらない。若者が一旦外に出たとしてもまた戻ってきてくれるようにするにはどのような取組が必要だろうか。

会　　長　：その視点は第3次那須地域定住自立圏共生ビジョンに取り入れたほうがよい。街の存続は若い世代が住み続けてくれるかというところにかかってくる。個人的には、中学生、高校生への教育というところに取り組むべきだと考えている。ここの魅力がなくなると家族ごと別の地域に引っ越してしまう。特に中山間地域では、その地域に高等学校がなくなると、人口減少率が20%程度増加するという研究結果もある。そうならないためにも、中高生が元気に活躍できる地域というブランディングをしていかなければならない。中高生が主役になるまちづくりの仕組みがあってもよい。

会　　長　：保健福祉分野に関する新しい視点として、不登校やヤングケアラーの問題、コミュニティナースの仕組みづくりに取り組む市民団体への支援などを検討してみては。

副 会 長　：レベル4の自動運転が認められるようになると、また公共交通の考え方が変わってくる。そういった考えも入れていく必要がある。

会　　長　：自動運転なら那須地域といったところまで取り組めるといい。

二つ提案させていただきたい。まず、あまり話す機会のない若い世代、中学生や高校生、大学生とこの懇談会を開催するのはどうか。那須地域に関してこのような世代から話を聞くのは重要だと考える。

また、移住してきた女性向けのコミュニティづくりに取り組めないか。小商いの勉強や交流ができるといい。

## 8　そ の 他

○　事務局

（事務連絡。）

## 9　閉　　会（午前11時25分）